

## 今後の広報活動での運用

なお、しばらくは、学術集会の案内、研修会の案内については、リハ医学会学会誌、はがきでの郵送を併せて行います。

広報委員会では、学会の会員用Webシステムへの登録をいろいろ工夫、地方会学術集会学会発表時、研修会などを通じて強くすすめていきたいと思っています。進行していけば、httpのより一層の活用方法が見えてくるものと確信しています。

さらに財政健全化の本筋は、近畿地区の会員を開拓し、増やし、若手のリハビリ医が余裕を持ってより積極的に参加し、活躍していくことにあると考えます。そのための有用な情報発信の方法として大胆に電子化を推進していきたいと思えます。

会員各位からのより積極的な批判、ご意見を期待したいと思います。

広報委員会

## 新専門医の抱負

平成22年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。

専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、これからの近畿地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。

### 石野 真輔 関西リハビリテーション病院

平成5年に卒業し長らく脳神経外科医として勤めてきましたが、リハビリテーション科に転科し、この度専門医試験に合格することが出来ました。試験勉強をしながらまだまだ知らないことがたくさんあることを実感し、合格通知はいただいたものようやくスタートラインに立てたようなそんな気持ちです。脳外科医時代には、脳卒中の急性期治療に習熟していたつもりではありましたが、リハビリという視点で患者を診ることも時間も少なかったため、回復期・慢性期の診療にあたるようになり、右脳損傷がこんなに大変なことなんだと改めて思い知りました。脳外科学会や脳卒中学会でもっとリハビリテーションの分野が大きく取り上げられるようになれば良いと思います。リハビリテーションが対象とする疾患は非常に多いため、内部障害・小児・腫瘍などまだまだ課題はたくさんあります。これからも学ぶ姿勢を忘れずに励んでいく所存です。ご指導よろしくをお願いします。

### 植田 秀樹 島田病院

当院は羽曳野・藤井寺地区を中心に整形外科の専門病院として地域でのヘルスケア機能を担っています。当院だけでセラピストは40人以上従事しています。また関連施設の回復期リハビリテーション病床を持つ八尾はあとふる病院や老人保健施設悠々亭と連携して地域のリハビリテーション専門病院としての役割を担っています。特に運動器疾患患者におけるリハビリテーションを中心にリハ医療をおこなっています。地域でのリハビリテーション提供体制を考えますとしばらくは幅広い分野のリハビリテーションを担っていかざるをえない状況です。老健施設では特に運動器疾患術後や脳卒中急性期後等のリハビリテーションにおいて在宅復帰を視野に据えたリハビリ指導に力を入れています。私自身、地域を担うリハビリ専門医としてもっと研鑽を積み、施設と在宅での掛け渡しの役割をこれからも果たしていきたい気持ちです。

### 森下 真次 高の原中央病院

現在、高の原中央病院の回復期リハビリテーション病棟(50床)中心に勤務しております、森下と申します。

私は昭和62年の卒業で、いささか年を食ってからの受験生でしたので、特に口頭試問では随分と緊張し、本当に久しぶりに冷や汗をかきました。

卒業以来20年間は神経内科医としてやってまいりました。以前勤めていた病院では脳卒中や神経筋疾患などでリハ科にお世話になる事が多かったのですが、幸か不幸かりハ科が充実しておりましたので、自分の患者さんについてさえ、リハに積極的に関わることはありませんでした。以前の私は急性期と慢性期のみを診ており、リハは何となく近くて遠い存在でした。しかし回復期リハ病棟を担当することになり、ぽっかり抜けていたリハの核心である時期を診る事が出来るようになった事で、自分の中ではようやく診療として一つになったような気がします。

まだまだ未熟ですが、宜しくご指導のほどお願いいたします。

## 杉江 美穂 奈良県総合リハビリテーションセンター

平成8年に奈良県立医科大学神経内科に入局し、平成18年から奈良県総合リハビリテーションセンターに勤務しています。以前は急性期病院や難病病棟で神経内科医として「リハビリテーション」の重要性を感じながら、その知識や能力は不十分なものでした。現在の勤務先で他の先生方やリハ療法士・看護師などに関わりながら学び、認定臨床医と専門医の試験勉強をして、やっとリハ医と名乗れるようになりました。疾患の治療という観点ではなく、家庭・社会の中で暮らす存在として患者さんを診ていけることに、リハ医の魅力と責任を感じています。さらに研鑽を積んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくごお願い申し上げます。

## 齋藤 政克 近畿大学医学部堺病院 整形外科

今回、リハビリテーション科専門医の末席に加えさせて頂きました。整形外科に入局し、主に運動器に対するリハビリテーションに携わってきました。当科は関節リウマチ患者さんが多いこともあり、運動器以外にも呼吸、循環などの内部障害を合併されていることがよくあります。これまで、運動器に関する問題以外は各科の医師に一任してきましたが、今後は内部障害に対してもリハビリテーション医として各科とのマネジメントを含め全人的なリハビリテーションを提供していきたいと思っています。近畿大学にもようやくリハビリテーション医学講座(福田寛二教授)が開講されました。リハビリテーション科専門医としては、未熟な分野もまだ多くあり、当院のみでは経験できないこともあるため、各分野のスペシャリストと交流を深めながら、信頼される専門医を目標に努力していきたいと思っております。今後とも御指導の程宜しくごお願い申し上げます。

## 児玉 典彦 兵庫医科大学リハビリテーション医学教室

この年齢になり久しぶりに試験勉強を始めました。神経内科から転科して4年目の新人です。リハビリテーション医学は、基礎的解剖学はもちろん生理学、など本当に多くの分野の知識が偏りなく必要とされています。臨床においては患者さんの心のケア、制度の呈示、社会的・家庭的生活環境の調整なども含まれた分野です。勉強すればする程奥が深く感じました。神経内科学的診断はどうしても静的部分を重視しているような気がしました。動的そして動きそのものの本質を科学的とらえようとしている医学であり、今回の試験合格を機に更にリハビリテーション医学に邁進して行きたいと考えております。

諸先生方からの更なるご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

## 坂井 孝司 大阪大学医学部附属病院リハビリテーション部

リハ専門医を目指すきっかけとなったのは、リハ専門医であった父の影響です。現在療養中の父が最後までこだわったのが、リハ専門医継続の単位取得でした。年老いた母が付き添い、老老介護のような状態で何とか講習会へ参加していましたが、ついに参加不可となり、事務局から単位不足の通知が実家に届いたのを目の当たりにし、父の思いを感じ取り、昨年1年間は申請・準備に時間を費やしました。

このように私の場合、リハ専門医を目指した理由は患者さんのためという純粋なものではありません。しかし勉強しているうち、自分がこれまであまり知らなかった分野に純粋に興味を持ち、日々のリハ診療にフィードバックするようになりました。

現時点では名ばかりのリハ専門医であることは自分自身よくわかっております。今後も純粋な興味を大事にしつつ勉強を続け、真のリハ専門医に近づけるように努力して参ります。今後とも宜しくごお願いいたします。

## 森脇 美早 関西リハビリテーション病院

このたび、専門医に加えていただきました森脇美早です。私は関西医科大学在学中、4年生の時にリハビリテーション医学の授業で感銘を受けたことをきっかけにリハビリテーション科医を目指してまいりました。しかし、身近な同じ医療関係者にもリハ医とその仕事についてよく理解していただけないことや、歪んで認知されていることが度々あり、医局に属していなかった私は、リハ医とはなんだろうか、リハ医の必要性はどうなのか、リハ医としての臨床能力をつけるにはどのように勉強していったらよいかと悩む日々でした。専門医を目指す中で、リハビリテーション医学を理解し究めたい先輩や仲間たちとぼつりぼつりと出会うことができ、自らも学んでいくうちにそれらの悩みは消え、ついに専門医を取得することができました。今後も更に勉強し、専門医としての臨床能力を高めていきたいです。これからもよろしくごお願い申し上げます。

## 猿橋 康雄 滋賀医科大学整形外科

滋賀医科大学の猿橋康雄と申します。私は今まで主に脊椎外科の領域を勉強して参りました。脊椎脊髄疾患により手指の巧緻運動障害や歩行障害など重度のADL障害が起こった場合でも、手術と術後のリハビリにより良好なADLの改善が得られることをしばしば経験します。手術後のリハビリでは多職種のリハビリスタッフと連携して早期リハビリの共通のコンセプト(復職や在宅復帰を目標とすることなど)を持って治療にあたることの重要性を痛切に感じております。今後は、担当させていただいた患者様のADL・QOL向上に少しでも貢献できるように、リハビリ医療の研鑽に努めて参りたいと考えています。ご指導のほど、宜しくお願いいたします。

## 勝谷 将史 西宮協立リハビリテーション病院

この度、リハ科専門医として認定をいただき、新たな一步をふみだしました。

「リハビリテーションはQOLの医療だ」という言葉に感銘を受け、他科から転科し今年で5年目、現在は回復期リハを中心に多くのスタッフとともにチームで患者様の治療にあたり学びの多い日々を送っております。まだまだ知識も技術も未熟ですが質の高いリハビリテーションを患者様に提供できるよう、またリハ医療の普及、教育、発展にも力を入れていきたいと思っております。

「Adding years to life」ではなく「Adding life to years」を目指し患者様が充実した生活を送れるような全人的医療を目指します。

## 森田 昌宏 整形外科もりたクリニック

大学時代、障害者スポーツのボランティアをしており、その頃からリハビリテーション(以下リハ)医学に興味がありました。卒業6年間一般外科を学ぶ中でもリハに対する興味はなくなりませんでした。

平成13年、当時の関西労災病院リハ科部長、住田先生にその思いを伝えたと、快くリハ医としての道筋をつけてくださいました。大阪府立身体障害者福祉センター附属病院では勝山部長のもと高次脳機能障害について学び、大阪府済生会中津病院では回復期リハ病棟の専従医として北村部長から多くの症例について学ぶことができました。

大阪市北区で開業してこの5月で1年を迎えました。近隣の病院と病診連携をとり、退院後患者の外来リハや在宅診療に、毎日忙しく働いています。この地域で質の高いリハを提供するのが目下の夢です。

最後に、専門医試験に向けて勉強会を開催してくれた辻外科リハ病院の中土先生をはじめリハせん会のメンバーに感謝を申し上げます。

## 平成22年度総会のご報告

7月3日(土)に開催されました平成22年度総会におきまして、幹事/監事改選が行われ、11名の候補者が総会の承認を経て新幹事に決定いたしました。

また総会後に開催されました幹事会にて新代表幹事に田中一成先生(大阪医科大学)が推薦され、満場一致で承認されました。その後新代表幹事の指名により、中土保先生(辻外科リハビリテーション病院)と宮崎博子先生(京都桂病院)が副代表幹事に選出されました。

### 新代表幹事よりご挨拶

このたび平成22年度日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事会におきまして、代表幹事の職を仰せつかることになりました大阪医科大学の田中一成です。

身に余る光栄を感謝申し上げますとともに、近畿地方会の舵取りという重責に身の引き締まる思いです。浅学菲才の若輩者ではございますが粉骨砕身務めますので、どうぞご指導、ご支援をお願い申し上げます。